

学力向上拠点形成事業（確かな学力育成のための実践研究事業）
平成17年度 中間報告 【瑞穂市】

推進地区の概要（平成18年3月現在）

推進地区名	瑞穂市					
推進校（校数）	小学校	2校	中学校	1校	計	3校
推進校（校名）	・瑞穂市立本田小学校 ・瑞穂市立生津小学校					
	・瑞穂市立穂積北中学校					

研究のねらい

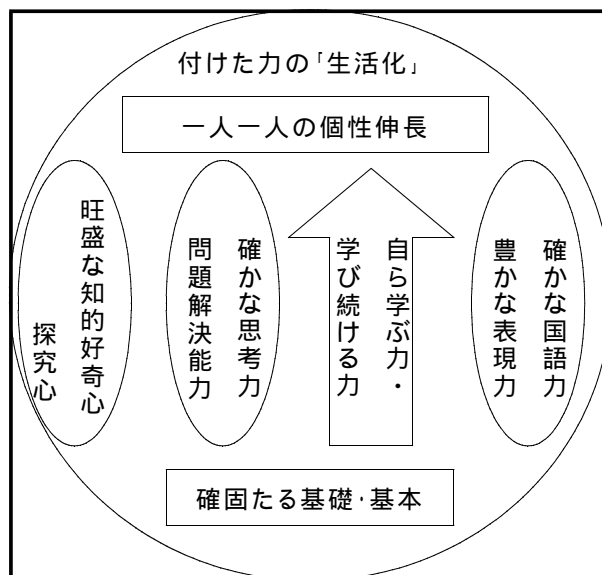
「時代の変化に対応してたくましく生き抜ける『確かな学力』を備えた児童生徒の育成」

- <ア> 本事業の推進校3校，協力校7校（市内全小・中学校）を分野別の先進的拠点校（拠点校）として位置付け，各拠点校における研究の成果を他の学校へ広める。
- <イ> 「確かな学力」を育成するために外部指導者，地域人材等を積極的に生かすことができる体制を整え，人材活用を促進する。
- <ウ> 拠点校ごとにカリキュラム開発・教材開発を行い，指導方法を工夫改善する。
- <エ> 各拠点校の成果を普及させるために，学校間の連携を強化する。
- <オ> 「市の就学区域弾力化」の運用を踏まえ，「確かな学力」を育成しつつ，特色ある（魅力ある）学校づくりの在り方を究明する。

研究の概要

1. 「確かな学力」のとらえ（次頁構想図参照）
研究を進めるにあたって，「確かな学力」を次の7要素ととらえ，これらを育成するための指導方法について実践的に究明することにした。

確固たる「基礎・基本」
旺盛な知的好奇心・探究心
確かな思考力・問題解決力
確かな国語力・豊かな表現力
自ら学ぶ力・自ら学び続ける力
一人一人の個性伸長
付けた力の「生活化」



2. 重点内容（平成17年度～平成19年度）

「旺盛な知的好奇心・探究心」の育成
・教材開発や事象・問題提示及びまとめ方を工夫する。
「確かな思考力・問題解決力」の育成
・児童生徒の問題解決の過程を大切に授業を展開する。
「確かな国語力」、「豊かな表現力」の育成
・読む力・書く力・話す力・聞く力の実態を「岐阜県にける児童生徒の学習状況調査」（以下「学習状況調査」）の結果を分析し把握する。

3. 「確かな学力」の把握

学力の基盤となる「国語力」（読む力・書く力・話す力・聞く力）の実態について、「学習状況調査」の結果を分析し把握する。

各学校の教科・領域等における児童生徒の学習状況を分析し把握する。

児童生徒による学習の振り返りや自己評価、意識調査などを分析し学習に対する意識を把握する。

4. 「確かな学力」を育成するための主な手立て（市教委）

（1）「確かな国語力」、「豊かな表現力」の育成について

自ら学ぶ上で基盤となる「国語力」の向上をめざす。

国語の指導の在り方を追究することで、教科指導に対する理解を深め、児童生徒の実態に応じての指導方法を創意工夫することの大切さを実感し、教師の授業力の向上を目指す。

- ・1学期の小学校への市教委訪問を、すべての担任による国語科授業とし、授業改善に向けた指導・助言を行う。
- ・市の教職員夏季研修において、全小学校教員と全中学校国語科教員が参加する「国語力向上研修」講座を開設する。
- ・「私の国語の授業」（国語科授業実践紀要）を作成、配付し、よりより国語科指導についての理解を図る。

（2）各推進校（拠点校）の成果を普及させるための学校間連携について

- ・市内各校が推進校の取組学べるよう、教職員夏季研修において「学校間実践交流会」を開催する。
- ・市内各校が開催する各小・中学校の研究発表会への積極的な参加を呼びかける。
今年度は市内10小・中学校が自主発表会を開き、有効な指導方法等について学び合う。
- ・「学力向上推進協議会」の開催（12月16日）
推進校3校の発表と「瑞穂市学力向上アドバイザー」による指導・助言を基に改善点を見いだす。
- ・「研究推進委員会」の開催（1月30日）
市内10校について、「分野別拠点校」としての本年度の成果と課題を交流し、次年度の方向を共通理解する。

（3）「確かな学力」の育成のための外部指導者・地域人材の活用を促進する体制づくりについて

- ・「瑞穂市学力向上アドバイザー」による指導

・岐阜大学教育学部副学部長・岐阜大学教育学部教授
・岐阜聖徳学園大学非常勤講師

- ・学習のねらいを実現するための効果的な指導として地域人材の活用を促す。

(4) 訪問指導等について

- ・市内各校への訪問等においては、「学習状況調査」の結果分析を踏まえて、それぞれの学校の教育課題や児童生徒の実態に応じた指導・助言をする。

5. 推進事業の実際

\	月	期 日	市教委主催の推進事業
計 画 Plan 	4	上旬	・市内各校における平成16年度「学習状況調査」の結果分析の確認
	5	訪問時等	・平成16年度「学習状況調査」の結果分析に基づく指導上の改善点に関する共通理解（市内各校ごと）
	6	21日(火)	・学力向上拠点形成事業推進計画・研究組織・経費の計画(校長会説明)
	7	5日(火) 14日(木) 22日(金) 29日(金)	・第1回研究推進委員会(学校間研究実践交流会について) ・国語力向上研究委員会(「私の国語授業」趣旨説明) ・瑞穂市教育研究所 夏季研修(～8/22) ・「国語力」向上研修会
	8	12日(金) 23日(火)	・学校間研究実践交流会 ・県第1回連絡協議会
実 践 Do 	9	5日(月)	・「夏季研修講座を終えて」成果と課題(校長会説明)
	11	1日(火) 9日(水) 15日(火) 25日(金)	・穂積中学校研究発表会 ・キャリア教育公表会(巣南中・南小・中小・西小) ・穂積北中学校実践公表会 ・本田小学校研究発表会
	12	2日(金) 16日(金)	・生津小学校研究発表会 ・瑞穂市学力向上推進協議会
	1	中旬 下旬 30日(月)	・平成17年度「学習状況調査」の実施 ・平成17年度「学習状況調査」の結果分析(市内各校ごと) ・第2回研究推進委員会(本年度の研究の成果とまとめ)
	2	1日(水) 10日(金)	・穂積小学校研究発表会 ・牛牧小学校研究発表会
評 価 See	3	中旬	・第1年次のまとめ(本年度の成果と課題 次年度の研究方向の検討 次年度の研究計画の交流)

成果と課題

1. 成果

市教委訪問を国語の授業公開としたことにより、「国語力」向上に取り組もうとする教師一人一人の意欲や学校としての構えが浮き彫りになり、的確な指導・助言を行うことができた。

- ・これまでの実践の積み上げの有無が明らかにされ、今後の授業改善の視点や教師の指導方法の改善点がはっきりした。

「国語力向上研修」では、物語文、説明文の読解力を高め、教材研究の深さや必要性について各校教師が実感でき、2学期以降の授業実践に自信と意欲をもつことができた。

実践事例集「私の国語の授業」を作成することにより、次年度からの国語の授業改善に生

かせる具体的な指導の在り方について学び合うことができた。

「確かな学力」を育成するためには、教師の「鋭い教材分析」「的確な実態把握」「学習過程や学習活動の工夫」「明確な目標」「指導と評価の一体化」等、教師自身が授業力を磨く必要があるという自覚が高まった。

「確かな学力」の育成に向けて、各学校が学び方の基礎である「聞く・話す・読む・書く」等の姿勢づくりに取り組むことができた。

夏期研修講座の「学校間実践交流会」では、各校の特色ある教育活動に学び合ったことで「推進校」「協力校」が、分野別の拠点をつくっていかこうとする意欲を高めた。

- ・「『各学校の特色を学び合うこと』『各学校の特色をより明確にしていくこと』そして、その核となることを今後も続けていかこうとする意欲付けにも大きな成果があったと思う。」という教師の声が聞かれた。

各学校が「学習状況調査」の結果分析を基に、「どんな力をつけたらよいか」「どのように授業改善を進めるのか」「児童生徒にとって、『確かな学力』にかかわる課題点を補強するためにはどのような活動を位置付けたらいいか」等について、具体的な方策を明らかにするなど前向きに取り組むことができた。

専門的な立場から、市の「確かな学力」育成に対する指導・助言を受けることができ、「瑞穂市学力向上アドバイザー」との連携づくりができた。

2. 課題

「確かな学力」を育成する“子ども主体”の授業にするために、「教師のどんな言葉かけで子どもたちがどう動くか」「交流活動ではどのようなことを交流すればいいのか」等、教師の指導・援助の在り方をさらに具体的に究明していく必要がある。

各教科の本質を身に付けさせるための学習過程はどうあるとよいかについて、これまでの成果を踏まえ、「確かな学力」の実態と照応させながら最適化する必要がある。

事業推進に関する市教委や学校での取組、教師力講座「みずほ教師塾」に対する教師の受け止め方に若干の弱さもある。各学校内での共通理解を一層促進し、どの教師も前向きに取り組めるよう働きかけていく。

「確かな学力」の育成を「特色ある学校づくり」に反映させるために、各学校の取組を価値付けながら両者の関連を一層明確にする。

研究成果の普及の場として設定してた「夏期研修講座」や「本事業にかかわる推進会議」「外部指導者を招いての研修会・講演会」「市内各校による研究発表会」「教育広報紙（「みずほ教師塾」を含む）」「市教委ホームページ」等について、効果を高めるために質的な改善を図る。